

TKT0024

ワンハンドルかご(オーバル／210×160×H170mm)

人気の「ワンハンドルかご(ラウンド／φ160×H100mm)」を長方形にサイズアップした本格的なワンハンドルかごです。このサイズになるともう外に持ち出したいくなります。「欲しかった大きさ!」「実用的なサイズ!」を、時間や空間に縛らずに制作することができます。



【完成サイズ】: 約 210×160×H170mm
【面取り作業】: 必須
【なめし作業】: 必須
【制作時間】: 約 6～8 時間
【動画視聴】: あり

【スペック】

□ベルト(本体:約 W20×L800mm×20 本
※4 本のみ L600mm の場合があります
ハンドル:約 W20×L500mm×4 本)
□予備ベルト
□麻縄(800mm)×1 本
□芯板(300mm)×1 枚
□レシピ(本紙)

【必要な工具】

< 必須工具 >

□ラスタ □木製ピンチ □ハサミ □定規 □鉛筆
□なめし道具(オリーブオイル、タオル、小皿)

< 状況により必要となる工具 >

□カッター □輪ゴム
□ボンド(セメダイン社スーパーXゴールド(XG) <推奨>)

【動画視聴方法】

YouTube を視聴できる最新のブラウザ、オペレーティング システム、良好なインターネット接続が必要です。PC 操作方法や動画操作手順はサポート外ですので、お身内やご友人などお分かりになる方にお聞きください。
※最新バージョンの Google Chrome、Firefox、MS Edge、Safari、Opera
※500 Kbps 以上のインターネット接続システム要件



タブレットやノート PC などの環境で閲覧いただくのが一番オススメです、それほど古くない普通のスマホ(らくらくフォンなど制限のあるものは除く)をお持ちであればほとんど問題ないと思われます。ただ画面が小さいのでわかりにくい箇所もあるかもしれません。

※動画 URL を一般に公開することを固く禁じます。

※休会・退会された場合は、視聴することができなくなります。

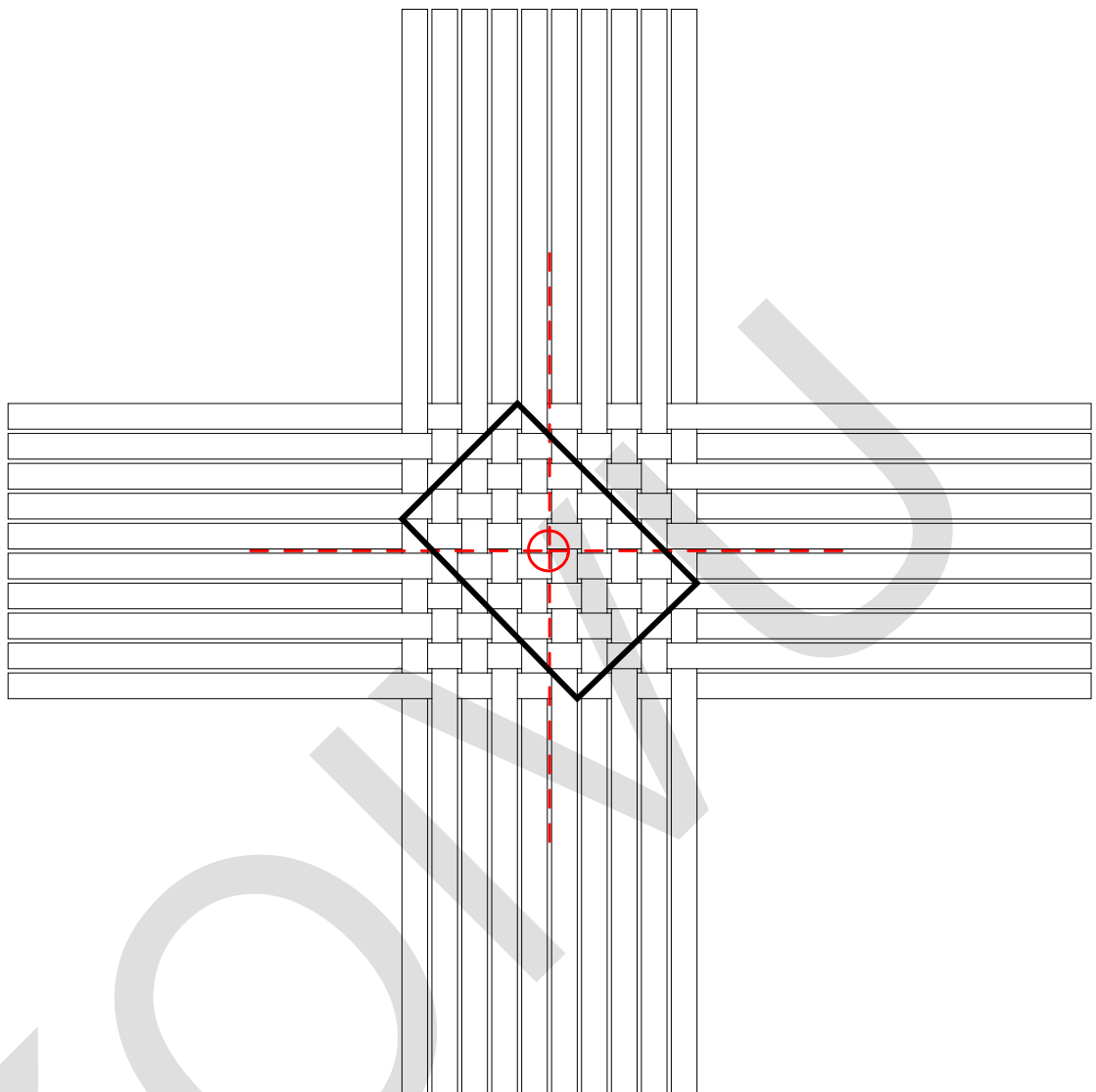
【制作前に一読ください】

- 本紙を参照しつつ、**動画解説に主軸を置いて進めていきます。**
また、講座修了者を対象としているので、基本的な工程は解説を省略していることがあります。
- 制作前には、「**スペック**」や「**必要な工具**」が揃っているか確認ください。
- 本作品は、「**かご型**」に属します。
以下に大別される手順にしたがって作業を進め、完成を目指しましょう!
「井桁状に並べる ⇒ 編み上げる ⇒ フチで折り返す ⇒ 始末する ⇒ ハンドルを編み取り付ける」

1. 井桁状に並べる

1-1. 外皮側（赤印）に鉛筆で中央に印をつけ、長いベルト順に図①のように井桁状に並べ、すき間を寄せます。

1-2. 図①の太線に沿って定規をあて、手前に折り曲げます。



図①

2. 編み上げる

2-1. いずれかの角より、外皮側を見ながら編み始めます。

2-2. 1角終わったら、1マスが正方形になるようにすき間を寄せて、2角目を編み進めます。

2-3. 以降、同じ作業を繰り返して、ゆがみなく立ち上げます。

3. フチで折り返す

3-1. 1マスの対角線を「1」とすると「2.5」の高さの外周に鉛筆で線を書き入れます。

3-2. 鉛筆で線を描いたベルトを1本、鉛筆で線を付けたマスまでほどき、線通りに折り曲げ、側面のすき間に1マスだけ差し込み、同じ作業を1周行います。

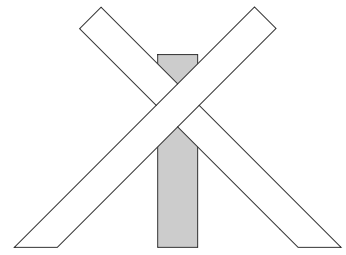
- 3-3. フチで折り曲げたベルトの間に芯となる麻縄を1周通していきます。
- 3-4. 未処理の残り半分のベルトを1本ずつフチで折り返し、2マスまで差し進め、麻縄がフチから落ちないように調整しながら差し進めます。
- 3-5. 麻縄の両端をカットして最後の1本も折り返し、フチの凹凸や側面の隙間や浮きを修正します。
- 3-6. 3-2. で差し込んだ方向のベルトをさらにもう1マスずつ差し進めます。
- 3-7. 3-4. で差し込んだ方向のベルトをさらにもう1マスずつ差し進めます。
- 3-8. フチの凹凸や側面の隙間や浮きを修正します。

4. 始末する

- 4-1. 底部に向かって、4つ角を通過する8本のベルトを差し進め出会ったベルトのみ始末します。
※ベルトの長さが足りない部分は予備ベルトで外皮面が隠れるように足します。
- 4-2. 4つ角で出会うベルトを始末します。
- 4-3. 内側から2列目で出会ったベルトのみ始末します。
- 4-4. 動画を参考に順次ベルトを始末して完成です！

5. ハンドルを編み取り付ける

5-1. ハンドル図①のように、芯板を挟むようにしてハンドル編み用の 4 本のベルト（赤印側を裏向きにして）を、片面 2 本ずつ（裏側も同じ重ね順）十字に重ね合わせて輪ゴムで固定し、本体に合わせ、先に延ばすベルトの長さを調整します。



ハンドル図①

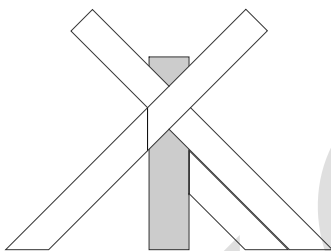
5-2. ハンドル図②のように、一番手前側にあるベルト（解説通りに制作していれば左下に伸びているベルト）を芯板に沿って、裏側に折り曲げます。

5-3. ハンドル図③のように、反対側の裏側のベルト（解説通りに制作していれば右下に伸びているベルト）を芯板に沿って、手前側に折り曲げます。

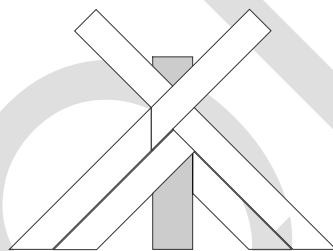
5-4. ハンドル図④のように、反対側の裏側のベルト（解説通りに制作していれば左下に伸びているベルト）を芯板に沿って、手前側に折り曲げ、5-3. で手前に折り曲げたベルトの内側に通します。

5-5. ハンドル図⑤のように、反対側の手前側のベルト（解説通りに制作していれば左下に伸びているベルト）を芯板に沿って、手前側に折り曲げ、5-1. で裏側に折り曲げたベルトの内側に通します。

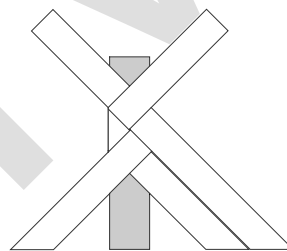
5-6. しっかりとベルトのすき間を詰めて形を整えます。



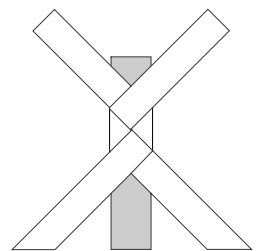
ハンドル図②



ハンドル図③



ハンドル図④



ハンドル図⑤

5-7. 同じ要領で、5-2. ～5-6. をもう 6 回繰り返し、ハンドルを完成させます。

5-8. 本体とハンドルを接合して完成です！